

転校虎の巻

TENKOU TORANOMAKI



転校生支援プロジェクト

一般社団法人TENKIN LAB × 関 美佳(寺子屋つながりリンク代表)

Contents

はじめに ～転校は、異国の地で乗るバス～

1. 「転校」について

- 1) 転校はかわいそう？
- 2) 転校に関する様々な要因
- 3) 事務的な手続き・挨拶

2. 親ができること

～転校を“パニック”ではなく“成長の機会にする”3つのコツ～

- コツ1** リサーチと事前準備
 - ・リサーチのヒント
 - ・事前準備のヒント
- コツ2** キーワードはChallenge by Choice
 - ・成長のメカニズム
 - ・子どものChallenge by Choice
 - ・親もChallenge by Choice
- コツ3** 逃げ道の確保と、見守り
 - ・行動のメカニズム

3. 我が家の場合を考えるためのヒント集

- 1) 転校経験エピソード
- 2) 転校に効く絵本
- 3) Web、交流の場

◆特別編 「生きる力」

おわりに

はじめに



転校は異国の地で乗るバス

転校生の気持ちってどんなものでしょうか……。

例えば、あなたが子どもだとして。

ある日突然、言葉の通じない異国の地で、
たった一人でバスに乗せられるようなもの、かもしれません。

誰かに話しかけられたらどうしよう。怖いな。

どこかに連れ去られるかもしれない。

いつまでこのバスに乗るんだろう。

どこに行くんだろう？

お腹が空いたら？ トイレに行きたくなったら？
知らない場所で突然1人降ろされたらどうしよう……。

夜になったらどうするの？

もう二度と帰れないの？

……まさに恐怖ですよ。

では、

事前にバスの行先と乗り方を、教えてもらっていたらいかがでしょう？

「このバスの行先は〇〇だよ。」

「揺れたら何かにつかまるといいよ」と。

そして、お母さんがバスの運転手さんとこやかに挨拶をしていたらどうですか？

「ああ、このバスに乗っていて大丈夫なんだ」

「〇〇まで乗っていればいいんだ」と

少し安心するのではないのでしょうか。 →**コツ1**

さらに。

事前に家族で地図を広げ、
バスに乗るか、歩いていくのか、リュックには何を入れていくかを、
おしゃべりしながら選べたとしたらいかがですか？

「何色のバスが来るかな?」「どんな人が乗っているんだろう?」

「窓からはどんな景色が見えるかな」と、
ワクワクして楽しみになってくるかもしれません。 **→コツ2**

加えて、お父さんが
「降りたくなったらいつでも降りることができるよ」
「降りたらお母さんが待っているよ」
「困ったら電話をしてね。必ず電話にでるからね。」と、
出発前に言ってくれたらどうですか？

いつでも帰れる、いつでも降りることができる、
そう思ったらとてもリラックスしてバスに乗ることができますよね。
「このバスに上手に乗れたら、次は電車にも乗ってみようかな」
とまで思える気がしてきませんか？ **→コツ3**

この転校虎の巻では、
「転校を“パニック”ではなく“成長の機会に”にする」ために、
親としてできる**3つのコツ**をお伝えしていきます。

異国の街で、子どもをたったひとりバスに乗り込ませるのではなく、
子どもが安心してバスの旅を楽しめるようにしてやりたいものです。

「転校」は誰もができる経験ではありません。
子どもは「転校」をする中で沢山の新たな出会いを得て、
時には困ったことや辛いことも乗り越え、
一まわりも、二まわりも大きく成長することでしょう。
この貴重な経験はきっと、その子の人生を支える力になるはずですよ。

1) 転校はかわいそう?

転勤族ママ会の中でよく話題にのぼるのが、「夫の転勤にいつまでついていけるか」という問題です。転勤辞令が出た際に、家族帯同か単身赴任かについて、多くの家庭で迷うようです。

下記の表(図1)でも、乳幼児をもつ家庭では69.6%、未就学児の子をもつ人は51.8%が「家族帯同」しているのに対し、「小学生」のいる家庭の「家族帯同」は30.1%とガクンと減っています。対して増えるのが「単身赴任」であり、子どもの小学校入学のタイミングが大きなポイントであることが伺えます。(※転勤者が男性、国内転勤の場合)

さらに、子どもの年齢が上がるにつれて、単身赴任の割合が顕著に増加していきます。ここから読み取れるのは、なるべく子どもの転校を避けようという親の思いです。

図1 図表 3-2-22：直近の転勤時の家族帯同・単身赴任の状況(単位=%)

	n	国内転勤			海外転勤				
		家族帯同	単身赴任	無回答	n	家族帯同	単身赴任	無回答	
全体	2846	45.0	51.5	3.5	419	52.5	44.2	3.3	
<性別>									
男性	2666	44.4	52.6	3.0	410	52.9	44.1	2.9	
女性	176	55.1	34.1	10.8	9	33.3	44.4	22.2	
<性・転勤時の年齢>									
男性	20代	258	83.3	14.0	2.7	54	79.6	18.5	1.9
	30代	948	62.3	35.1	2.5	174	73.0	23.0	4.0
	40代	1042	29.4	67.5	3.2	154	27.9	69.5	2.6
	50代以上	405	16.5	79.5	4.0	25	4.0	96.0	0.0
女性	20代	39	69.2	23.1	7.7	2	0.0	50.0	50.0
	30代	76	69.7	17.1	13.2	4	25.0	75.0	0.0
	40代	51	29.4	58.8	11.8	3	66.7	0.0	33.3
	50代以上	9	11.1	88.9	0.0	-	-	-	-
<性・転勤時の子供の有無(MA)>									
男性	転勤当時、子供はいなかった	574	73.9	23.3	2.8	119	76.5	20.2	3.4
	乳幼児の子供がいた	461	69.6	27.5	2.8	70	62.9	37.1	0.0
	小学校就学前の子供がいた	560	51.8	45.4	2.9	88	61.4	37.5	1.1
	小学校の子供がいた	727	30.1	67.3	2.6	119	42.9	53.8	3.4
	中学・高校の子供がいた	622	12.7	84.6	2.7	87	17.2	81.6	1.1
	大学生以上の子供がいた	393	10.7	84.2	5.1	28	7.1	92.9	0.0
女性	転勤当時、子供はいなかった	107	57.0	34.6	8.4	6	33.3	50.0	16.7
	乳幼児の子供がいた	27	74.1	7.4	18.5	-	-	-	-
	小学校就学前の子供がいた	8	75.0	12.5	12.5	-	-	-	-
	小学校の子供がいた	13	84.6	7.7	7.7	3	33.3	33.3	33.3
	中学・高校の子供がいた	13	46.2	46.2	7.7	-	-	-	-
	大学生以上の子供がいた	16	6.3	87.5	6.3	-	-	-	-
<性・転勤前の配偶者の就労状況>									
男性	配偶者は働いていなかった	1203	56.9	40.7	2.3	183	56.3	40.4	3.3
	正社員として働いていた	538	38.5	59.3	2.2	129	58.9	39.5	1.6
	非正社員として働いていた	859	31.7	65.1	3.3	88	40.9	58.0	1.1
	上記以外(自営等)で働いていた	51	29.4	62.7	7.8	6	33.3	66.7	0.0
女性	配偶者は働いていなかった	7	42.9	57.1	0.0	1	100.0	0.0	0.0
	正社員として働いていた	155	59.4	29.7	11.0	6	33.3	66.7	0.0
	非正社員として働いていた	3	33.3	66.7	0.0	-	-	-	-
	上記以外(自営等)で働いていた	9	11.1	77.8	11.1	-	-	-	-
<性・転勤時の赴任期間>									
男性	1年以下	624	37.2	58.7	4.2	52	36.5	59.6	3.8
	2年程度	463	37.4	59.0	3.7	70	40.0	58.6	1.4
	3~5年程度	928	47.4	50.2	2.4	231	55.8	40.7	3.5
	6年以上	283	68.9	28.6	2.5	53	73.6	24.5	1.9
女性	1年以下	46	45.7	47.8	6.5	4	25.0	25.0	50.0
	2年程度	24	58.3	20.8	20.8	3	0.0	100.0	0.0
	3~5年程度	48	50.0	41.7	8.3	2	100.0	0.0	0.0
	6年以上	20	70.0	20.0	10.0	-	-	-	-

※国内転勤、海外転勤がそれぞれある者について、直近の転勤開始時に既婚だった者を対象に集計。「転勤時の赴任期間」は「現在転勤中」を除く。

一方で、転居を伴う転勤を求められている人は、私たちの想像以上に多くいるようです。「企業における転勤の実態に関するヒアリング調査2016」によると、従業員が1,000人以上の企業では、実に89.8%の企業が転居を必要とする人事異動があるようです。

では、子どもが親の転勤にともなって転校することは、かわいそうなことなのでしょうか。これを読んでいる方の中には、知り合いや親せきなどから「子どもを転校させるのはかわいそう」と言われたことがある人もいるかもしれません。言っている人に悪気はなくても、自分でも迷いがある時にそう言われるととても気になるものです。

しかし、転校生支援プロジェクトでは「転校させるのはかわいそう」と決めつける必要はないと考えています。

今回のプロジェクトを行うにあたり、子どもの頃に転校した経験をもつ人にアンケートをとったところ、「とてもよい経験だった」と思っている人がいることが分かりました(図2)。

また、「1 とてもよい経験だった」と「5 大変辛い経験だった」の中間の「3 どちらとも言えない」と答えた方は、大変だったことと良い経験だったと思われる両方のエピソードを沢山教えてくださいました。

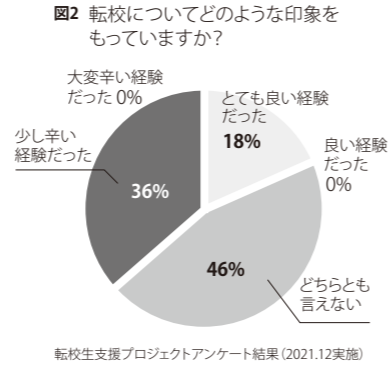


図3 図表 3-2-29：転勤期間中の家族との関係（単位＝％）

		n	良好だった	やや良好だった	どちらともいえない	あまり良好ではなかった	良好ではなかった	無回答	良好	良好でない
国内転勤	国内転勤	5431	59.9	14.5	17.4	3.8	1.5	2.9	74.4	5.3
	性別									
	男性	4391	58.4	14.8	17.9	4.3	1.7	2.8	73.2	6.0
	女性	1036	66.3	12.9	15.3	1.5	0.6	3.4	79.2	2.1
	転勤時の未既婚状況									
	未婚だった	2469	61.9	14.0	18.9	2.1	0.9	2.2	75.9	3.0
	既婚だった	2846	59.5	15.3	16.6	5.4	2.0	1.2	74.8	7.4
	既婚者									
	性・家族帯同・単身赴任									
	男性 家族帯同	1184	70.1	12.8	11.0	3.9	1.8	0.5	82.9	5.7
男性 単身赴任	1401	50.7	17.6	21.9	6.9	2.4	0.5	68.3	9.3	
女性 家族帯同	97	72.2	14.4	11.3	0.0	0.0	2.1	86.6	0.0	
女性 単身赴任	60	60.0	13.3	15.0	8.3	3.3	0.0	73.3	11.6	
単身赴任期間中の帰省頻度										
月に1度以上	1211	52.8	17.7	20.5	6.6	2.1	0.2	70.5	8.7	
数ヶ月に1度	203	43.3	16.3	28.6	9.4	1.5	1.0	59.6	10.9	
年に1～2度程度	38	34.2	18.4	26.3	7.9	13.2	0.0	52.6	21.1	
年に1度も会えなかった	2	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	100.0	
海外転勤	海外転勤	620	57.6	15.5	14.5	4.4	0.6	7.4	73.1	5.0
	性別									
	男性	579	57.3	16.1	14.9	4.3	0.7	6.7	73.4	5.0
	女性	41	61.0	7.3	9.8	4.9	0.0	17.1	68.3	4.9
	転勤時の未既婚状況									
	未婚だった	171	69.0	8.2	14.6	1.2	0.0	7.0	77.2	1.2
	既婚だった	419	56.6	19.6	15.5	5.7	1.0	1.7	76.2	6.7
	既婚者									
	性・家族帯同・単身赴任									
	男性 家族帯同	217	65.9	18.0	10.6	3.7	0.5	1.4	83.9	4.2
男性 単身赴任	181	47.0	23.2	21.0	7.7	0.6	0.6	70.2	8.3	
女性 家族帯同	3	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	
女性 単身赴任	4	25.0	25.0	25.0	25.0	0.0	0.0	50.0	25.0	
単身赴任期間中の帰省頻度										
月に1度以上	4	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	
数ヶ月に1度	69	42.0	31.9	20.3	5.8	0.0	0.0	73.9	5.8	
年に1～2度程度	104	46.2	20.2	23.1	9.6	1.0	0.0	66.4	10.6	
年に1度も会えなかった	5	80.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	80.0	20.0	

また、上記の表(図3)では、「単身赴任」より「家族帯同」の方が「家族関係が良好だった」と高い割合で答えていることも注目に値します。

子どもが成長していく時期に家族一緒にいることを選び、新しい環境に家族一丸となってチャレンジすることは、家族の結びつきを強くし、ひいては良好な関係を築くことにつながるのかもしれませんが。

「家族帯同」「単身赴任」のどちらを選ぶかということには、正解も間違いもありません。それぞれの家族ごとに一番よいと思う道を選ぶ他ないのです。

そして、子どもの「転校」を伴う選択をした場合には、それが子どもにとっての「成長の機会」「いい経験」となるようにしていけばよいのではないのでしょうか。

2) 転校に関する様々な要因

転校には下記のように様々な要因が関係してきます。

- 子どもの年齢 …幼稚園保育園、小学生低学年、小学生高学年、中学生、高校生
- 兄弟姉妹 …有無、年齢差
- 転校理由 …転勤・転職など親の仕事の都合、家族構成の変化、災害からの避難、新居購入、学校が荒れていた・なじめなかった、など
- 地域性 …都市部と田舎、寒暖差、言葉の違い、文化や県民性の違い、教育熱心なエリアとそうでないエリアなど
- 学校の規模、形態 …大規模、小規模、中規模 複式学級、中高一貫、国公立、私立
- タイミング …クラス替えと同時、学年の区切り、学期途中など
- 学校の規則・校風 …制服の有無、厳しい規則、自由な雰囲気
- 通学 …徒歩通学、通学班有無、バス通学、電車通学、送り迎え必須
- 海外の場合 …日本人学校、現地校、インターナショナルスクール、補習校、など

☆先輩メモ

住む地域が決まったら、大きめの不動産屋さんに電話をして、住んでいる人や街の雰囲気をまず聞きます。それから自分と似たような人がいそうなエリアに見当をつけます。

3) 事務的な手続き・挨拶

ア) 事務的な手続き

- ・新しい家と学校、転校日(最終日、初日)を決める
- ・通っている学校の担任の先生に連絡
- ・転校先の市(町村)役所の教育課に電話で手続き方法を確認

イ) 挨拶

クラスのお友だちや先生へ挨拶の品をどうするかは気になるところです。

- ・状況により様々
- ・品物はなくてもOK

☆先輩メモ

住むエリアが決まったら、市町村の教育課や教育委員会に電話をして学校の規模、転校生の多い学校を聞いています。転校生の出入りが多い学校の方が先生もお友だちも親も慣れている、なにかと入りやすいと感じています。

☆先輩メモ

出る学校の友だちには、鉛筆をあげたことがありました。事前に先生に相談します。何も渡さないこともあります。新しい学校へ行くときは特に何も持っていきません。

「転校」を“パニック”ではなく“成長の機会”にする3つのコツ

コツ1 リサーチ、事前準備

知らない場所は、それだけで不安になるものです。事前に少し知っておくことで、恐怖や心配が軽減し、安心して一步を踏み出すことができます。

○ リサーチのヒント

学校の規模、地方か都市部か、児童の出入りの多さなどをリサーチすることで、転校先の状況を予測することができます。可能であれば、子どもにもこまめに情報共有することをオススメします。

☆先輩メモ

赴任地が決まったら、とにかく情報収集をします。SNSでゆるくつながっている昔の友だちや、共通の趣味を持つ友だちのネットワークで地域の様子を聞いてみます。みんなよろこんで色々教えてくれるし、引っ越した後にも力になってくれることが多いです。

○ 事前準備のヒント

転校先の先生にも受け入れ準備をしてもらいましょう。「転校パスポート」に、子どもの特性や状態を記入して、先生に伝えます。挨拶時に渡すとスムーズです。親と先生がコミュニケーションをとることは、子どもに安心感を与えます。先生も、子どもの好きなことや得意なことがわかれば、受け入れやすくなります。

☆転校パスポート



Webサイト「転動ノオト」よりダウンロード可

☆先輩メモ

転勤辞令が出たら、夫は『るぶ』を買ってくることになっています。それを家族で見ながら、「これを食べてみたい」「ここへ行ってみたい」と次の地のイメージを膨らませています。お城めぐり、乗り物、遊園地や動物園など、子どもながらに楽しみなところを見つけるようです。今回は、好きなユーチューバーが住んでいる場所、だと言っていました(笑)

☆先輩メモ

家をピックアップして下見に行く時は、できるかぎり子どもと一緒に連れていき学校まで歩いてみます。コロナで下見に行けなかった今回は、子どもと一緒にネット検索しました

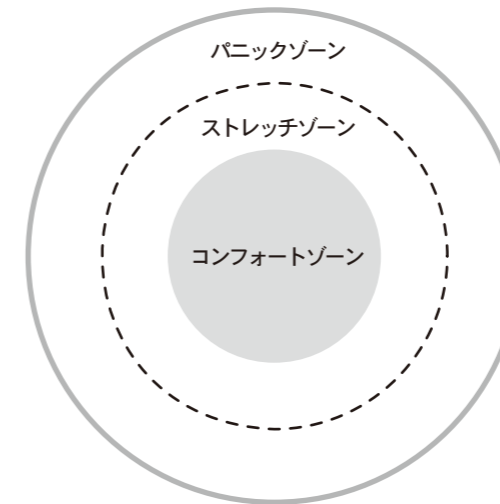
コツ2 キーワードは『Challenge by choice ! (チャレンジ バイ チョイス)』

転校・引っ越しは、子どもの意志と関係なく決まることが多いと思います。そんな中でも、できるだけ子どもが選択できる余地を与えることで、パニックにおちいってしまうのを避け、成長していくことが可能になります。

同じ事柄であっても、自分で選んだことにチャレンジすることと、外からの力でやらされたことでは、取り組む気持ちがまったく異なります。自ら選択したことに取り組むとき、成長は一気に加速します。

○ Challenge by choice 外からの力で「やらされた」
 ⇔ Challenge by other 「しなければならなかった」こと

☆成長のメカニズム



「転校」は、コンフォートゾーンから出ざるをえない出来事。→このとき、パニックゾーンに入ってしまうようにすることが大事。そのため、準備や「Challenge by choice」が有効。

また、コンフォートゾーンに居続けても、成長をストップさせてしまう。ストレッチゾーンで様々な経験をすることで成長していく。コンフォートゾーンが広がり、許容範囲が広がる。このことから「転校」は成長の機会になる、といえる。

※学びのステージ概念 ミシガン大学ビジネススクール ノエル・M・ティシー教授提唱

☆子どものChallenge by choice !



☆私のChallenge by choice !

手続きや作業に追われ、生活を成り立たせることに必死になりがちな大人も、Challenge by choice ! を心がけてみてください。親が前向きでワクワクした気持ちを持っていると、それが子どもにも伝わるものです。



コツ3 逃げ道の確保と、見守り

○ 逃げ道の確保

子どもは、学校が全てになりがちです。学校では、嫌なことや上手くいかないこともあるかもしれません。新天地で緊張の時間をすごしてきた子どもが、ほっと一息つけるような、安心して帰れる家庭をぜひ確保してください。言いたいことやアドバイスなどがあっても、まずは子どもの話をよく聞いてあげることが大事。

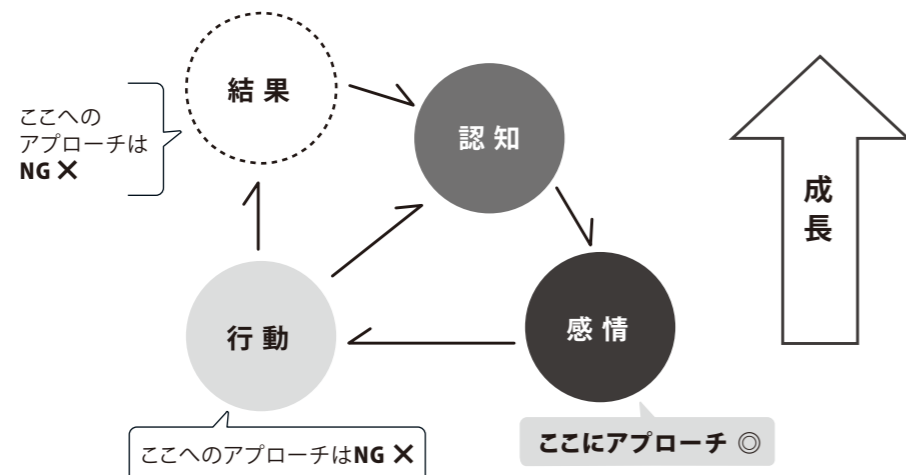
家庭以外にも、前のお友だちや習い事、好きなことが逃げ場になることがあります。

○ 見守り

見守りをする時には、「行動」や「結果」に注目するのではなく、どうしてそのような行動にいたったのか、どうしてそのような結果になったのか、その前提にある「感情」に注意を向けてみましょう。

また、子どもはすべて言語化できるわけではないので、体に変調をきたしたり、なんとなく顔色がすぐれなかったり、口数が少なくなったりといったサインを見逃さないようにします。

☆行動を起こすメカニズム



※資料『子どもの成長を加速させる3つのコツ 心配するところ間違えない』関美佳

とはいえ、親が心配しすぎると、それが子どもに伝わってしまうことがあります。気にかけてながらも「大丈夫!なんとかなる!」と親がデーンと構えていることで、それを見た子どもも安心するようです。

☆先輩メモ

娘が仲良くしていた子のママと、引っ越し前にLINE交換をしました。転校後しばらくは、LINE通話で色々おしゃべりをして、心のよりどころになっていたようです。

03 我が家の場合を考えるためのヒント集

異国の地での旅(転校)にトラブルはつきものです。どんなに準備しても、やはり予想外のことは起こります。子どもの性格や周りの環境によっても、どのような旅になるかは100人いれば100通りでしょう。ここからは、先輩たちのエピソードを掲載します。

1) 転校経験エピソード

<p>001 🔍</p> <p>毎回、ドキドキしていたけれど、周りの子達が寄ってきてたくさん質問してくれてたのを覚えています。そして、仲良しの子が1人できて一緒に楽しく過ごしてきた記憶があります。今振り返ると、その仲良しさんは、私が来る前は他の子と仲良しだったのかもしれないなあとと思います。</p>	<p>002 🔍</p> <p>田舎の小学校では赤と黒のランドセルがほとんどで、ピンク色のランドセルは全校で私1人だったため、とても目立って男子からかわられてたいへん面倒でした。また、宿題の量が極端に増え、学習方法も変わるのに、特に教員から細かい説明がなく困惑することが多かったです。</p>	<p>003 🔍</p> <p>思春期にさしかかり田舎から都会に行けるのが嬉しかったし、羨ましがられました。さらに転校先では職員室や教室にみんなが見に来たりして、かつてない人気者気分が味わえたのも思い出。もう小6だったので、あまり最初から調子に乗って嫌われないように気をつけていました。</p>	<p>004 🔍</p> <p>子どもを小学校2年生の3学期の半ば、2月に転校させました。友達との別れはやはり辛かったです。手続きもあるため、直前まで黙っておくことはできなかったのですが、それも含めて、学校に言うタイミング、お友達に言うタイミングは本人に決めさせました。転校先は転出入の多い学校で、受け入れはきわめてスムーズでしたが、本人は前の学校に帰りたい、友だちに会いたい、と夜になると号泣する毎日でした。学校ではそんなそぶりもみせなかったようですが、3年生の間は「数字をみると、前の学校の、その数字の出席番号の子のことを、思い出す…」と。すこしでも知り合いがいる状態で新4年生のクラス替えを迎えたいと決めた引越しのタイミングでしたが、4年生になってから、あだ名をつけてもらったり、休日に遊ぶ約束をしてきたり、時間が解決してくれたのかなと思います。その後は前の学校のお友達に手紙を書くこともなくなりました。</p>
<p>005 🔍</p> <p>中学校入学と同時に転校したため、まわりに知り合いが1人もおらず、初めての中学生活とも重なって精神的に疲弊しました。</p>	<p>006 🔍</p> <p>社宅だったのでその中に住む上級生と一緒に学校に行くため、疎外感はなかったです。それでも数年後、同じ長崎から来た子が訛りをからかわれて学校に行きたくないと言っていたのを見てちょっと複雑な気持ちでした。</p>	<p>007 🔍</p> <p>高校で落ちこぼれ不登校気味に。父親が単身赴任で他県に居たので転校することに。履修科目を合わせオクケーとなれば受験できるシステム。最初に受けた高校に落ち、その後3校は科目が合わず受験出来ず。最後の1校にひろってもらったのが始業式前日。高校での転校は本当に大変でしたが現在自己肯定感が上がり穏やかに暮らせています。</p>	
<p>008 🔍</p> <p>中学一年生の夏休みに引っ越し。2学期から新しい中学校へ。親から話を聞いた時は、決まってしまうこと、転校しなくてはならないのだよね、と涙を流しながら確認しました。辛かったです。でも、まだ中学一年生の2学期だったので、新しいところでの部活の友達ができ、いじめにあうということもなく楽しく過ごせました。田舎の過疎地域から都市部のマンモス校への転校のギャップはすごかったけれど、今となってはどちらのいいところも感じられて良い経験でした。</p>	<p>009 🔍</p> <p>—自分から無理に話しかけることはない。必ずだれかが声をかけてくれるから、それに素直に返事すれば、とりあえず当分続く仲間はある。そのうち自分に一番気のあう友だちを探せばよい—『新しい出会いを活かして』P78より抜粋</p>	<p>010 🔍</p> <p>—「1回目の転校より2回目の転校の方が楽だった」という人が多くいます。自己開示や社会的スキルを身につけているからです。—『新しい出会いを活かして』P82より抜粋</p>	<p>※転校生支援プロジェクトが2021年12月にWEB調査を実施。その時に寄せられたエピソードを掲載しています。</p>

2) 転校に効く絵本

<p>『やどかりのおひっこし』</p> <p>新しい場所においても、君ならまた一からやっつけていける!そんな風に子どもを励ましたい時におすすめの絵本。 ●作: エリック・カール ●訳: もりひさし ●出版社: 偕成社</p>	<p>『ぼくち ひっこし』</p> <p>家族で準備したり荷ほどきする場面がとっても明るく賑やか。引っ越しって「家族で楽しむイベント」にもなるんだな〜と思える本。 ●文: 山本 省三 ●絵: 鈴木 まもる ●出版社: 金の星社</p>	<p>『とん ことり』</p> <p>絵本に出てくる女の子のように、少し踏み出すと新しい出会いがそこにあるかもしれないと思えたら、引っ越しが楽しみになりそう。 ●作: 筒井 頼子 ●絵: 林 明子 ●出版社: 福音館書店</p>
--	---	--

3) Web、交流の場

○ Web

■引越す人たちが支え合う web マガジン
Tenkin-note 転勤ノオト
<https://tenkin-note.com/>



■転勤族や移住者情報をまとめたサイト
転勤・移住 Life
<https://tenkin-iju-life.com/>



■海外への転校、海外からの転校に
公益財団法人 海外子女教育振興財団 HP
<https://www.joes.or.jp/>



○ ママ会

各地で転勤族や転入者向けの交流会が行われています。自治体が発行する広報や、Instagram や Facebook などでも告知されていることが多いのでチェックしてみましょう。「転勤・移住 Life」サイトでも各地の情報を一覧することができます。

○ LINE チャット

コロナ禍において、リアルでの集まりが難しいタイミングもあります。LINE チャットで「転勤妻」をキーワードにした集まりで、「転校」について話題に上っていることがあります。

◆特別編「生きる力」

「生きる力」とはなんだろう…

自分の人生は自分で創る

何があっても生きていける

自分と仲間と歩める人に、なる力です。

◆「生きる力」を育むために

人間、生きていけば必ず壁にぶち当たります。

それでも、自分で乗り越えていける力、誰に作られたモノではない、自分の人生を自分の足でしっかり歩む力です。

そして、それは決して独りよがりなことではなく、自分の強さを出し、弱さを助けてもらい、社会とつながり、社会に貢献していることを実感できることです。

自分で考え、挑戦し、失敗してまた考える、を繰り返す、達成感を味わう。

失敗しても成功する方法があることを知る。

その過程で自分の「強さ」(能力)を見つけ、自分の「弱さ」と向き合うことができます。

生きる力とは「何があっても生きていける力」です。

講師 関美佳さん 寺子屋つながリンク代表

プロフィール

国内の大学にて教育学を修めた後、アメリカに留学。インディアナ州立大学(レクリエーションマネジメント専攻)卒業。山村留学指導員を経て、現職。キャンプなどの野外活動を通して、国内外1万人以上の子どもたちと出会う。寺子屋つながリンクでは、「子どもたちが共に育ちあう場を提供」し続けており、「自分の人生を自分の足で歩める人」を育てる事業を様々な環境に展開している。

○「生きる力」を育む、体験型教室 寺子屋つながリンク

スタッフは子どもたちを指導するのではなく、子どもたちに寄り添い、背中を押すことを大切にしています。子どもたち自身が気づき、行動に移すことが何よりも必要だからです。

保護者の皆さんと共に子どもたちの「強さ」(能力)を発見し、様々な環境とつながって、生き抜くことの大切さ伝え、広げていくことを大切にしています。

おわりに

「転校」のコツは確かにあります。けれどもすべての人に効く万能薬はありません。子どもの特性や転校のタイミング、家族の状況にもよりますが、何より相手があることです。

ですので、転校をきっかけに万が一辛い経験をされた場合でも、決して子どもも自分も責めないでください。子どものせいでも、親であるあなたのせいでもありません。ましてや失敗などではないのです。

転校すること、新しい環境に飛び込むことは、とても大変なことです。

頑張っている子どもを、ご自分をぜひねぎらひましょう。疲れたら休み休みまいるましょう。

旅のハプニングは、長い目で見ればきっと人生を豊かにしてくれるはずですよ。

そして、そこで見えた景色、バスの乗り方、出会えた経験をぜひ、全国の転校生とその親にもシェアしていただけましたら幸いです。

◇文献

○ 参考文献

『新しい出会いを活かして 一転校を心理学する』
小泉令三著 北大路書房

『企業の転勤の実態に関する調査』
独立行政法人労働政策研究・研修機構2016年

『企業における転勤の実態に関するヒアリング調査』
独立行政法人 労働政策研究・研修機構

『子どもの成長を加速させる3つのコツ 心配するところを間違えない』
関美佳

○ 転校生支援プロジェクト

転校生支援プロジェクトは、一般社団法人TENKIN LABが、一般社団法人 心豊かな社会をつくる子ども教育財団の助成(2021年度)を得ておこなっている事業です。

○ 一般社団法人TENKIN LAB

<https://www.tenkin-lab.com/>
「転勤は転機にもなる」を合言葉に2018年から転勤族支援をしている一般社団法人TENKIN LAB。つながる、けんきゅうする、はたらくをキーワードに活動を行っています。

◇編集後記

わが子の転校で悩んでいたときに、いくら探しても転校生支援の仕組みがなかったことが、このプロジェクトを立ち上げたきっかけです。一方で、まわりには転校経験者が多くいることにも気が付きました。実は、著名人などにも「転校」について語っている方が多くいらっしゃいます。それは、「転校」がその方たちの人生に大きな影響を与えたということに他なりません。

大きな転機であることに間違いのない「転校」。それがいい経験となるか、辛くて思い出したくもない経験になるか、その差はいったいなんなのだろう？わが子に、親がしてやれることはなんだろう、との思いで色んな方に相談させていただきました。沢山の方に示唆をいただき、温かい応援をいただきました。ありがとうございました。その温かい支援を、多くの転校生とその親たちに届けたいと活動しております。

転校がいい転機となりますように！

転校生支援プロジェクト 一般社団法人TENKIN LAB理事 利根川美海